

9月30日

コロナ禍で暮らしが大変な
時に福祉の切り捨てやめよ
行財政局審査で大かわら議員



質問する大かわら鈴子議員

神戸市は行財政改革2020と称して、敬老祝い金の廃止、高齢者配食サービスの廃止、高齢者・障害者施設の民営化など、5年間で258項目95億円もの事業を

近年、豪雨災害の被害が多発しています。神戸市も国や県と一緒にレッドゾーン・土砂災害特別区域を指定し、移転支援や改修支援制度をつくりましたが活用がしにくく、利用実績はありません。また、崩壊したがけや危険な擁壁に対して上限100万円の助成事業も新設しましたが、この事業は応急的な対策に対する助成制度となります。危険な擁壁は近隣の住民にも不安を広げています。森本議員が「自然災害の被害の未然防止のため、建設局は公共施設で保守点検をおこなっている。民有地においても、崩れない為の予防に対する助成制度をつくるべきだ」と質すと、建設局は「恒久的な対策は私有財産の形成になるので出来ない」という阪神・淡路大震災当時の国と同じ、時代遅れの答弁に終始しました。

決算特別委員会審査から

1. 行財政改革方針2025について
2. 職員削減について
3. 事務事業の見直しについて

質疑項目

削減しました。またあんしんすこやかルームの廃止や、この10月からは敬老パスの無料券・母子福祉パスの廃止を強行し、この度の行財政改革方針2025では、今後5年間で292億円もの事務事業を見直し、市民・福祉サービスを切り捨てようとしています。大かわら議員は「今、市民はコロナ禍のもとで暮らしが大変になっている。追い打ちをかけるような事務事業の見直しはやめるべき」と迫りました。

また、5年で職員750人もの削減目標を掲げている方針に対しても「この冬以降インフルエンザとの同時流行が懸念されている状況を考えれば職員体制の強化

こそおこなうべき」と質しました。

答弁ダイジェスト

岩崎副局長：見直した部分を財源として、子育て、教育、高齢者、障害者等の今後必要になってくる施策に充てていく。

大かわら議員：市民のための施策を実施するために市民の側の事業を削って財源をつくるというのはおかしい。子どもも高齢者も大変な思いをしている。その中でも三宮再整備など大型プロジェクトは聖域となって温存されている。これでは市民は納得できない。

9月30日

いのちと財産を守る
防災対策をすすめよ！
建設局審査で森本議員

質疑項目

1. レッドゾーンの支援強化について
2. 豪雨災害の事前防止策の強化について
3. 民有地の支援策強化を

答弁ダイジェスト

森本議員：他都市では災害が起こる前の減災対策の助成がある。横浜市や大分市でも制度を拡充し、金沢市では上限を求めない予防補助事業もできている。神戸市としてできないのか。

新見防災担当部長：他都市のことは承知をしている。恒久的な防災対策は私有財産の形成という事になり、公金の投入は慎重に考える必要がある。

森本議員：25年前の国の答弁と一緒に。私有財産に公的支援をと市民の声で、神戸市も行政も動いて、被災者再建支援法



質問する森本真議員

ができた。困っている人に手を差し延べるべきだ。

その他の質問

コロナ禍での下水道料金の値上げについて
—— 松本のり子議員

ぜひご視聴ください

山本じゅんじ議員が一般質問

日時 10月28日(水) 13時50分頃から 場所 市議会本会議場

本会議および委員会のインターネット中継をおこなっていますので、ぜひご利用ください

新型コロナウイルスの屋内感染防止のため、本会議および委員会の傍聴をご希望される方は、手洗い・アルコール消毒・マスクの着用、ならびに座席の間隔を空け、身体的距離を確保してお座りいただくようご協力をお願いいたします。

時間が前後する可能性がありますので、余裕をもってご覧ください

10月1日

跡地の活用も含め 利用者の声反映させた 図書館・体育館に 文化スポーツ局審査で今井議員



質問する今井まさこ議員

神戸市は、現在レバンテの1階にある図書館を移転する計画をしています。今

神戸市は、新港の1突基部での巨大開発に続き、第3・4突堤間の埋め立てと、第2突堤の開発をすすめています。これらはインバウンドを目的とした開発で、三宮地域と一体的にすすめていくとしています。現在、新型コロナウイルスの影響のもと、クルーズ船の入港はとまり、海外からの観光客は激減しています。西議員は、コロナ禍で状況は大きく変化したと指摘し、インバウンドに偏重した経済対策や開発優先の見直しを求めました。

答弁ダイジェスト

西議員：本会議でも大阪万博に乗り遅れないよう予算を使うという答弁だっ

10月5日

コロナ禍の影響で 住まいを失った方へ、 速やかに市営住宅の提供を 港建築住宅局審査で林議員



質問する林まさひと議員

神戸市は、コロナ禍の影響で住まいを失った市民に対して市営住宅を最大2年

1. 文化芸術活動関係者への支援について
2. 市の文化予算について
3. 新垂水図書館について

質疑項目

井議員は、蔵書数や子どもたちの自習スペース、十分な席数の確保など、これまで利用者みなさんが望んできたような新図書館にするよう求めました。また、平磯へ移転をすすめている4階の体育室とトレーニング室も含めて図書館移転後の跡地の活用についても、利用者の意見をしっかりと聞き、現地での存続ふくめ、みなさんが利用しやすい施設にするよう強く要望しました。

答弁ダイジェスト

岡田中央図書館長：古くて狭いという利用者の声を受けとめ、反省点を踏まえてつくっていく。蔵書数も市民のみな

質疑項目

1. 新型コロナウイルスの影響を踏まえた大規模投資の見直しについて
2. 神戸空港の方向性の再検討について
3. 空港連絡橋4車線化の見直しについて

た。神戸経済を考えると、本当にいいものになるのか疑問だ。三宮再開発と一体ですすめるとのことだがJR西日本は「事業内容を見きわめる」とするなど、関連事業者からも不安の声が出ている。ウォーターフロントにも影響が出ると思わないのか。

辻局長：(民間業者への)市場調査でも早期に事業着手すべきという意見が多くあった。

長谷川副局長：2025年の大阪万博は神戸をアピールできる絶好の機会だ。着実にすすめる。今回の開発は、賑わいや消費需要を創出するものをご理解いただきたい。

1. 第3次マネジメント計画について
2. コロナ禍で住宅を失った市民への対応について
3. 市営住宅の家賃減免について
4. 住宅の耐震診断、リフォームへの支援について

質疑項目

間という期間限定で100件ほど用意しています。これまでに200件ほど相談があり、実際に入居された方はそのうちの26人ということです。林議員は、「北区のある方は北区ではすぐに入居できる部屋がなく、やむをえず西区まで足を運んでやっと入居できた」という事例を紹介、「コロナ禍の中、解雇、雇止め、派遣切り、失業して住まいを失う方や収入が減ってローンが払えずに住まいを失う方は応急的に入居できる場所が必要だ。こ

んの声を聞きながら決めていきたい。跡地の活用計画はまだ白紙だ。

今井議員：図書館移転後の600㎡の部屋を親子のフラット広場や学童保育にして、体育室とトレーニング室をそのまま残してほしいという声を多数聞いている。

岡田局長：体育館と図書館の完成時期にはずれが生じるので、現計画通りすすめる。

今井議員：平磯へ移転をする体育館は、アクセス面を「検討する」としていたが、何も改善策が出されていない。子育て世帯から高齢者まで利用者の声を反映したものにすべきだ。

10月2日

ウォーターフロント コロナ禍でのさらなる 開発は許せない 港湾局審査で西議員



質問する西ただす議員

西議員：インバウンド目的で開発をすすめると外需だのみの危機に弱い神戸経済になってしまう。民間による開発だから神戸市には損はないと言うが、ウォーターフロントをさらに広くしていくには、莫大な費用も人も必要だ。もっとコロナでの対応に使えるはずだ。

これはまだまだ増える可能性もある。今の時期こそ、すぐに対応できるよう用意しておくべき」と質しました。

答弁ダイジェスト

林議員：提供を予定している残り74戸の市営住宅は、すぐ入れる状況になっているのか。

前田副局長：用意している枠全てがすぐに入居できるわけではなく、時間をいただくケースもある。基本的には希望があれば手続きさせていただく。

林議員：100戸用意すると広報しているのだから、こういう所に予算をつけて、すぐ提供できるようスタンバイしておくべきだ。